

# 台風11号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成27年7月14日

福井県農業総合指導推進会議

## 《用排水等の見回り注意》

- ・豪雨・強風の中、圃場の見回り等を行うと、河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の危険があるので、大雨や強風がおさまるまで控える。大雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。また、降雨により、ほ場の畦畔や法面が崩壊しやすくなるので厳重に注意する。

## 〈台風通過前の対応〉

### 1 ハウス共通対策

- ・ハウス周囲の排水溝を点検整備し、パイプ基部が浸水しないようにする。
- ・ハウスバンドを締め直し、被覆材の破損部の補修や筋かいの補強を行う。
- ・ハウスの浮き上がりを防ぐため、ハウスパイプの基礎部の土を締め固める。特に、新設ハウスで被害を受けやすいのでアンカー増設等の対策を行う。
- ・天窓はガタツキを修繕し、ハウスバンド等を掛けて固定する。また、出入口やハウスサイドを閉める。
- ・換気扇のあるハウスでは、ハウスを密閉し、換気扇を稼働させてハウスを負圧にする。
- ・周囲に防風ネットが設置してある場合は、点検、補強を行う。
- ・ハウス等の周囲はよく整理し、風に飛ばされやすいものは片づけておく。

### 2 水稲

- ・強風により稲体が傷み白穂や褐変籾に伴う茶米の発生につながるので、特に出穂が近いハナエチゼンでは深水管理を徹底する。

### 3 大豆

- ・培土済みの圃場では、枕地の培土が排水を妨げないよう、所々切り通しておく。

### 4 野菜

- ・キュウリ、ナスなどの果菜類では、果実の若穫りを行うとともに、不良果や

不良な茎葉は取り除き、株の負担を少なくする。

- ・ネギでは、大雨による浸水を防ぐため排水溝の手直しを行う。
- ・降雨がない場合、強風により蒸散が促進されるので、土壌の乾燥具合を確認し適宜灌水を行う。

## 5 花き

- ・キクでは、畝の両端の親支柱や中間支柱は、しっかり立て直し、中間にタルキグイを入れて補強する。
- ・畝の横風に対しては1、2本おきに隣り合わせの畝の中間支柱をハウスバンドなどで連結して固定する。
- ・ネットは作物の頂点から全長の3分の1程度下がったところで支持する。さらに畝を囲むようにハウスバンドをネットの下に張り、倒伏を防ぐ。
- ・風が強い場合は植物体からの水分蒸散が多くなり、乾燥害が懸念されるので、圃場が乾燥している場合は灌水、散水を行う。
- ・収穫間近のものがある場合は、やや早めでも収穫する。

## 6 果樹

- ・幼木や根の浅い樹種は、強風による倒木・落果を防止するために主幹にそわせて支柱を立て、結束する。
- ・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」等の点検を行うとともに、枝梢を棚に誘引・結束しておく。
- ・防鳥・防蛾ネットは、固定紐のゆるみをなくすとともに、ネットの外側からビニールバンドで固定する等して風であおられるのを防ぐ。固定は必ずアンカー一部にする。台風が接近し、ネットおよび棚の強度以上の強風が予想される場合はネットをはずす。
- ・近年増加しているブドウの施設では、ハウス共通対策を参照して、施設の強風被害を回避する。

## 7 畜産

- ・放牧地においては、牧柵等の施設の破損、土砂崩れ等の危険がないか点検を実施する。また、危険と判断した場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。
- ・畜舎に雨風が吹き込まないように、戸、窓をしっかりとめておくとともに、強風で破損しないように補強しておく。
- ・畜舎周辺の資材、ハウス堆肥舎が風で飛ばされないような対策を講じる。

## ＜台風通過後の対応＞

### 1 共通対策(ハウス破損、排水対策)

- ・ハウスや支柱、マルチ等に破損があれば早急に補強、補修する。
- ・施設内に水が侵入した場合、すみやかに排水を行なうとともに、換気を十分に行い土壌の乾燥を図る。
- ・圃場等を見回り、停滞水がある場合はすみやかに排水する。
- ・マルチを行なっている畝が冠水した場合は、マルチ下の土壌水分が過多となるので、マルチをはいたり、畝肩の部分までめくりあげたりして、畝の乾燥を促す。

### 2 水 稲

- ・冠水した場合は一刻も早い排水を図る。冠水した稲は軟弱となっており水分ストレスを受けやすくなるので、間断通水を励行する。
- ・冠水した場合は、いもち病が蔓延しやすいので、排水後直ちに防除する。

### 3 大 豆

- ・浸水・冠水した圃場では、できるだけ早く圃場の排水に努める。
- ・暗渠排水があればフタを開け、すみやかに排水する。
- ・部分的に水が停滞している場所があれば、溝を掘って排出する。
- ・枕地の培土が水をせき止めている場合、その部分を切り通す。

### 4 野 菜

- ・野菜苗等のしおれが甚だしい場合は、「寒冷紗」や「べたがけ資材」等を被覆して、植物体の温度の低下と蒸散の抑制を図る。
- ・茎葉の折れや破れ等の被害が発生した場合、傷から病原菌が浸入しやすくなるので、被害株や被害葉を除去した後、直ちに予防散布に努める。
- ・果菜類などで支柱等が倒れているものはすみやかに引き起こす。また、果実の被害程度に応じて摘果を行う。
- ・草勢を回復するため、液肥による葉面散布や追肥を行う。また、台風通過後の好天により土壌表面が固まっている場合は、軽く中耕し表土の通気を良くする。
- ・根元が露出している場合は軽く土寄せを行う。

### 5 花 き

- ・茎葉が損傷した場合は、病害が発生しやすくなるので、病害防除を徹底する。

- ・キク等の支柱が傾いた場合は立て直す。
- ・傾いた花きは、短時間傾いているだけで茎が曲がり、長時間そのままにしておくと元に戻らず商品価値を落とすので、すみやかに立て直す。
- ・多雨により、肥料が流亡した場合は、適正量を補給する。
- ・出荷している圃場では、汚れの少ない薬剤(殺菌剤等)で防除するとともに、曲がりや茎葉の損傷程度の大きい切り花が出荷時に混入しないようにする。

## 6 果樹

- ・倒木した場合はすみやかに立て直し、頑丈な支柱にくくりつける。
- ・枝が裂けた場合は、つかえ棒で支えながら、傷口を合わせ結束する。枝が折れた場合は、適度な分岐部まで切り戻す。いずれの場合も、大きな枝の切断面には、ゆ合剤を塗布する。
- ・湿度上昇による病原菌の繁殖や強風で生じた傷口から病原菌が侵入することにより、病害が発生しやすくなるので、天候の回復後すみやかに殺菌剤を散布する。
- ・キズや病害が発生した果実は、仕上げ摘果で優先して摘果する。

## 7 畜産

- ・畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし乾燥に努め、消毒も検討する。
- ・雨に濡れた飼料や乾草は、すみやかに給与するか、変敗しているようであれば廃棄する。
- ・牧草の生育が湿害により遅延した場合には、排水後に窒素量で3 kg/10a程度の追肥を施す。
- ・牧草地に侵食や土砂流入が発生した場合は、早急に現状復帰を図り、必要に応じ牧草の播種等を行い生産力の回復を図る。